

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

日時：令和7年9月18日（木曜日） 10時から12時

場所：かがわ総合リハビリテーション福祉センター AV 会議室

出席者：入所者1名、入所者家族1名

地域の関係者 鶴尾地区民生委員1名

福祉に知見のある人 基幹相談支援センター長（りゅううん）

経営に地検のある人 高松市社会福祉協議会 牟礼支所長

施設長、サービス管理責任者2名、生活支援員1名

1.開会挨拶

施設長より開会のあいさつがあり、地域連携推進会議の主旨説明を行った。

2.出席者紹介

施設長より出席者の紹介を行った。

3.かがわ総合リハビリテーション成人支援施設の概要説明

施設長よりかがわ総合リハビリテーション成人支援施設の概要説明を行った。

- ・医療機関から地域での生活、復職等まで一貫した支援を行っていること。
- ・利用者の障害内訳
- ・年齢層
- ・紹介元
- ・終了後の生活の場、日中活動の場
- ・施設のプログラム内容

4.施設見学

サービス管理責任者の案内で自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、施設入所支援の見学を行った。

5.質疑応答

【質問1】

リハセンターはこの建物にいろいろな機能がぎゅっと集約されており、様々なサービスを提供しているのでこのような機会がなければ、なかなか知ることができないのでいい機会になった。利用者も職員も熱心にされていることが分かった。また、プールや入浴など設備が老朽化していると話があったが、障害のある方のためにも更新してもらいたいと思う。

⇒以前、利用終了する利用者が地元で活動できるような設備を探してまわったが、介助者がいても断られることがあった。障害のある方にとっては唯一の設備である。また、約40年前の設備である。浴室や居室についても開所当時は当たり前の設備であったが、時代とともに変わってきている。更新をして訓練施設としてふさわしい環境にしていく必要があると考えている。

【質問2】

これまで、リハセンターには研修などで来ることはあったが、どのような訓練をしているか細か
いところまで知らなかった。在宅支援をしているので、対象の方がどのような訓練や支援を受け
ているのか理解できた。特に就労先のニーズに合わせて細やかな支援をされていることには驚
いた。引き続きこのような機会があれば参加させていただきたい。

⇒以前、社協に訪問した際、ヘルパーで派遣された先の家族の困りごとの相談を受けたことがある。若年で交通事故や病気の方が、社会復帰を図ったものの断念して自宅で引きこもっているケースがあると思う。そのようなことがあれば相談してほしい。

【質問3】

入所している方の意見や苦情などどのように吸い上げているのか。また設備面での不満がでる
ことはあるか。

⇒利用者の不満・トラブルのほとんどが足音やイヤホンから漏れる音、空調の具合など個室でないことが原因。施設では苦情箱も設置しており、ご意見いただくこともあるが基本的には口頭で話してくれる方が多い。また、担当者が利用者に定期的に面談をして困っていることはないか確認している。

また、苦情箱に意見をいただいた場合は苦情の内容や解決策等をセンター全体で共有するようにしている。

就労移行では精神障害や発達障害の方も多く、毎日日記をつけてもらったり、定期的に面談をすることで、利用者の状況を把握できるように努めている。

【感想1】

すぐ近くに住んでいるのだが、建物の中でこのような訓練や支援がされているとは知らなかった。生活に復帰するための支援や仕事に戻るための支援を細かくされているのがよく分かった。

【感想2】

病気発症時は何もできなかった本人が、病院でのリハビリを経てこちらの施設に入所して、さらに自分の身の回りのことやコミュニケーションが取れるようになった。自分でトイレや装具をはいたりできるようになって、家族としてもとてもよろこんでいる。

6.閉会

施設長より、地域との連携を深めるため引き続きご意見を伺いたい旨の挨拶があり、閉会した。